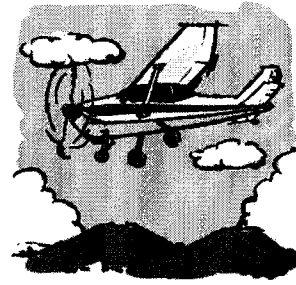


12/8(土)まじとく倫理号です。一日早いですがお詫言下さませ。今回の倫理1111号  
です。記念すべき1日なにか。体調不良と倉庫=眠る不良在庫とどんな関係か？

今週の倫理 1111号をよみます。エゴも一着 2018.12.8~12.14

1=眠っていたんだね。私は未だ実践してませんの良合マセ。 幸也 鄭マホ一鳥

# 執着心が 不良在庫をまねく



え・城谷俊也

十二月のテーマ

捨てる生活

## 師

走となり、職場や家庭で大  
掃除を予定している人も多  
いことでしょうか。新年に備えて、

普段は行なわないところを拭き清  
めていくと同時に、少なからず身  
の周りの不用となったものを処分  
することでしょう。捨てる物の多  
さに驚いたり、捨てる捨てないで、  
ひと悶着した経験をお持ちの人も  
いるはずですよ。

ところで、この「捨てる」とい  
うことは、純粹倫理において、大  
きな意味を持っています。倫理の  
学習・実践を通じて目指すのは「純  
情(すなお)」な心境です。『万人幸  
福の葉』には「ふんわりとやわら  
かで、何のこだわりも不足もなく、  
澄みきった張りきった心、これを  
持ちつづけることであります」と  
表現されています。そのため、  
エゴ、わがままを捨てることが大  
きなテーマとなるのです。

\*  
ある経営者が体調を崩し、頻繁  
に病院での検査を受けていました。  
治療を続けていたものの、なかな  
か改善の兆しが見えません。日頃

から「病気は生活の赤信号」と学  
んでいた社長は、思い立って倫理  
指導を受けました。

これまでの病状を詳しく語った  
社長は、そこで思わぬ指摘をされ  
たのです。それは、倉庫に眠る不  
良在庫についてでした。その中に  
は十年も前から眠っている商品も  
ありました。売れる見込みのない  
ことはわかっていたものの、処分  
できずにいたのです。

整理整頓をして、不要と思うも  
のがあればキツパリ捨ててみるこ  
とを教わった社長は、埃をかぶっ  
ていた不良在庫を処分しました。  
その後、定期的に倉庫の整理をす  
るようになってからのこと、数値  
に改善が見られ、やがて医師も驚  
くほど病状が改善したのでした。

この経営者が捨てたのは、目に  
見える物としては、倉庫に長らく  
眠っていた不良在庫です。しかし  
このことを通じて、(安く売るのは  
面白くない。さりとて捨てるのも  
もつたいない)と物に執着して、  
溜め込んでしまう心を捨てたので  
す。それは先に示したエゴ、わが

ままに他なりません。

こうしてみると、純粹倫理の中  
でも「捨てる」実践は、経営者に  
とつて重要度の高い実践といえる  
でしょう。倫理運動の創始者であ  
る丸山敏雄も、著書『清き耳』の  
中でこのように指摘します。

倫理の生活は、これを学的に展開  
すると「倫理大系」となり、実践の  
目標として標語に表わせれば『万人幸  
福の葉』十七力条となり、(中略)  
これを一つにまとめて日々の実行  
にひきさげると「捨てる生活」  
となる。

経営者として資質向上を遂げて  
いくための、捨てる実践のチャン  
スは、日常にあります。本紙の前  
号では、我欲・わがままを捨てる  
という方向でトラブルの解決に臨  
む時、トラブルそのものの解消は  
もとより、人間的な成長が期待で  
きることを示されていました。

病気やトラブルに限らず、日常  
生活の中にある様々な課題や問題  
は、わがままを捨て、純情(すなお)  
な心に迫るチャンスと捉えていき  
たいものです。

十二月度一句  
丸ハダカ  
暑クシ歩道  
花  
さかり